

平成24年度

幼稚園教育のあゆみ

—「元気兵庫へ 心豊かな人づくり」をめざして—

第45集



兵庫県教育委員会

発 刊 に あ た っ て

「幼稚園教育のあゆみ」第45集を発刊するにあたり、本県幼児教育の充実のためにご尽力いただいております関係者の方々に心から感謝申し上げます。

各幼稚園においては、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施のもと、充実した教育実践に努められていることと思います。

さて、幼児教育は、幼保の一体化、待機児童解消、子育て支援、学校種間の連携や小学校教育との接続など、大きな変革の時期を迎え、保護者や県民の関心と期待はますます大きなものとなっています。

国においては、「子ども・子育て関連3法案」が、税と社会保障の一体改革の一環として可決され成立しました。この3法は、①平成18年度からの認定こども園制度の充実・改善、②認定こども園、幼稚園、保育所の給付の一体化、③地域の様々な子育て支援の方策の3つの柱があり、保育の質を確保するため具体的な検討が行われています。この法案に基づき子ども・子育て支援新制度は早ければ、平成27年度より実施されます。

このように幼児教育の真価が問われている今、本県では、今後の教育の中期的な取組の考え方や具体的施策を示す「ひょうご教育創造プラン」(H21.6)に基づき、幼児期の教育の一層の充実を図る取組を進めているところです。

今年度は、「幼児教育支援事業」を実施し、「学び」を伝え合う力をテーマに、実践協力園6園において実践研究に取り組みました。また、学識経験者及び実践協力園教員等からなる幼児教育支援委員会を設置し、実践協力園の取組を基に、学びが広がり、深まるための伝え合う力について、教育内容や環境の構成、教師の援助の在り方を検討しました。その成果等については、地区別幼児教育研修会において公開保育や研究協議を行うとともに、「指導の手引き」としてまとめ普及・啓発を行いました。

さらに、幼稚園教育理解推進事業については、地区別幼稚園教育理解推進研修会・兵庫県幼稚園教育理解推進研究協議会での研究協議を重ね、国が実施する中央協議会において、「協同性」「子育て支援」「幼小連携」について研修を行いました。

今後は、この「学び」の研究成果を各幼稚園で活用いただくとともに、接続期における「学びの自立」を小学校教員と共通理解し、教育内容におけるつながりを確認しながら、実践を重ねていただきたいと考えております。

各幼稚園におかれましては、本冊子を参考に“元気兵庫”をめざすこころ豊かな子どもたちの育成に努めるため、園長先生方のリーダーシップのもと、教育課程の改善を行うとともに、幼稚園教員一人一人の資質及び専門性の向上に向け研鑽を積まれ、質の高い幼児教育が展開されることを心から期待しております。

平成25(2013)年3月

兵庫県教育委員会

幼稚園教育のあゆみ

第45集

目次

発刊にあたって

I 幼稚園の現状と推移

- ・ 幼稚園数、園児数、教員数等 1
- ・ 平成24年度 県内幼稚園・保育所設置状況 3

II 幼稚園教員の研修

- 1 幼稚園教育理解推進事業 5
- 2 幼稚園等新規採用教員研修 6
- 3 10年経験者研修 6

III 幼児教育支援事業

- 1 趣旨 7
- 2 実践研究の内容 7
- 3 「学び」を広げ、深める姿 7
- 4 「伝え合う力」と「伝え合いに向かう姿」 7
- 5 「学び」の広がり、深まりをとらえるために 8
- 6 地区別幼児教育研修会 8
- 7 事例 9
- 8 実践から明らかになったこと 21
- 9 伝える力を培うために 23
- 10 実践協力園 24
- 11 幼児教育支援委員会委員 24

表紙の絵「『くすのきだんちは10かいだて』をみて」

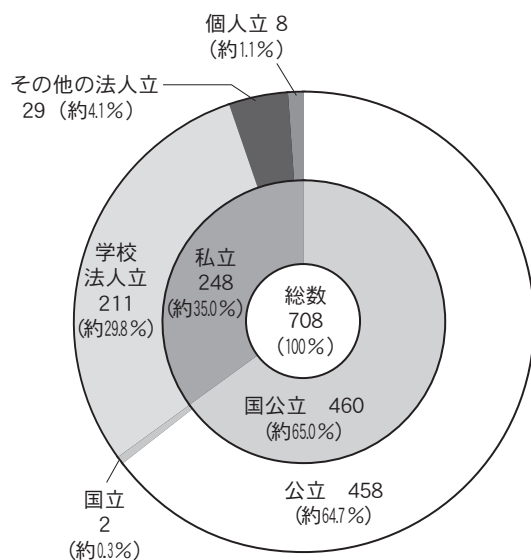
神戸市立有野幼稚園 寺澤 有佑樹（4歳児）

I 幼稚園の現状と推移

1 幼稚園数

兵庫県内の幼稚園総数は708園で、前年度より16園減少し、設置者別では、国立幼稚園2（構成比約0.3%）、公立幼稚園458（構成比約64.7%）、私立幼稚園248（構成比約35.0%）である。

私立幼稚園の設置者別では学校法人立が211園と一番多く、次いでその他の法人立が29園、個人立8園の順となっている。



設置者別園数（平成24年度学校基本調査）

年 度	計	国 立	公 立	私 立
20	748	2	505	241
21	742	2	498	242
22	726	2	480	244
23	724	2	475	247
24	708	2	458	248

（単位：園）

2 園 児 数

園児数は71,557人
（男36,398人、女35,159人）

前年度より753人(1.1%)増加した。

設置者別にみると、国・公立幼稚園の園児数は25,325人で前年度より245人減少し、私立幼稚園の園児数は46,232人で998人増加した。

設置者別園児数及び教員数（平成24年度学校基本調査）

区分	園 数	園児数	教員数	1園当たりの 在園児数	教員1人当たりの 在園児数
国立	2	249	14	124.5	17.8
公立	458	25,076	1,976	54.8	12.7
私立	248	46,232	2,900	186.4	15.9
計	708	71,557	4,890	101.1	14.6
H22	726	71,283	4,812	98.2	14.8
H23	724	70,804	4,876	97.8	14.5

年齢別に見ると、３歳児１４，２３０人（１９．９％）、４歳児２７，３１５人（３８．２％）、５歳児３０，０１２人（４１．９％）で、前年度より、３歳児は４２３人増加し、４歳児は、９６人減少、５歳児は４２６人増加した。

年齢別園児数（平成２４年度学校基本調査）

区 分	計	３歳児	４歳児	５歳児
国 立	249	65	101	83
公 立	25,076	517	10,982	13,577
私 立	46,232	13,648	16,232	16,352
計	71,557	14,230	27,315	30,012

（単位：人）

３ 教 員 数

本務教員数は、４，８９０人（男２３２人、女４，６５８人）で、前年度より１４人増加している。兼務教員は７６０人（男１６０人、女６００人）である。

男女別教員数（平成２４年度学校基本調査）

区 分		平成２３年度		平成２４年度		差引増減
		教員数(人)	構成比(%)	教員数(人)	構成比(%)	教員数(人)
本 務 者	計	４，８７６	１００．０	４，８９０	１００．０	１４
	男	２１８	４．５	２３２	４．７	１４
	女	４，６５８	９５．５	４，６５８	９５．３	０
兼 務 者	計	６９０	１００．０	７６０	１００．０	７０
	男	１６６	２４．１	１６０	２１．１	－６
	女	５２４	７５．９	６００	７８．９	７６

（注）１ 構成比は男女別の割合である。

４ 職 員 数

本務職員は６６３人で、このうち国立２人、公立２０５人、私立４５６人で前年度より１１人増加した。

平成 2 4 年度 県内幼稚園・保育所設置状況

平成 2 4 年 5 月 1 日

事項 地域	国 公 立 幼 稚 園	私 立 幼 稚 園	国 公 私 立 計	公 立 幼 の な い 地 域	公 立 保 育 所	私 立 保 育 所	公 私 立 計	保 育 所 の な い 地 域	幼 保 と も な い 地 域	事項 地域	国 公 立 幼 稚 園	私 立 幼 稚 園	国 公 私 立 計	公 立 幼 の な い 地 域	公 立 保 育 所	私 立 保 育 所	公 私 立 計	保 育 所 の な い 地 域	幼 保 と も な い 地 域
神戸市	(5) 48	(6) 103	(11) 151		66	140	206			明石市	<u>28</u> 1	2	31		11	31	42		
尼崎市	<u>18</u>	(2) 26	(2) 44		29	57	86			加古川市	<u>20</u>	3	23		9	26	35		
西宮市	<u>21</u>	40	61		23	39	62			三木市	(2) <u>12</u>	1	(2) 13		4	10	14		
芦屋市	<u>9</u>	4	13		6	6	12			西脇市	8	0	8		0	8	8		
伊丹市	<u>17</u>	9	26		8	14	22			小野市	<u>2</u>	0	2		0	14	14		
宝塚市	<u>12</u>	14	26		8	17	25			加東市	<u>2</u> 1	0	3		3	11	14		
川西市	9	8	17		8	13	21			多可町	3	0	3		2	3	5		
猪名川町	<u>4</u>	2	6		1	3	4			加西市	(2) <u>11</u>	1	(2) 12		10	5	15		
三田市	<u>10</u>	10	20		1	7	8			高砂市	<u>10</u>	1	11		9	10	19		
丹波市	<u>13</u>	4	17		3	17	20			稲美町	<u>5</u>	0	5		0	4	4		
篠山市	<u>14</u>	0	14		5	2	7			播磨町	3	0	3		0	4	4		
洲本市	5	1	6		9	4	13			姫路市	<u>46</u>	11	57		32	67	99		
淡路市	1	0	1		17	3	20			相生市	6	1	7		3	2	5		
南あわじ市	6	1	7		12	5	17			たつの市	19	1	20		12	14	26		

事項 地域	国 公立 幼稚園	私 立 幼稚園	国 公 立 計	公 立 幼 の ない 地域	公 立 保 育 所	私 立 保 育 所	公 私 立 計	保 育 所 の ない 地域	幼 保 と も ない 地域	事項 地域	国 公立 幼稚園	私 立 幼稚園	国 公 立 計	公 立 幼 の ない 地域	公 立 保 育 所	私 立 保 育 所	公 私 立 計	保 育 所 の ない 地域	幼 保 と も ない 地域
赤穂市	10	1	11		6	0	6			佐用町	0	1	1	○	12	0	12		
上郡町	3	0	3		2	1	3			豊岡市	24	3	27		10	12	22		
福崎町	4	0	4		4	2	6			新温泉町	3	0	3		3	1	4		
市川町	2	0	2		4	1	5			香美町	9	0	9		2	4	6		
神河町	6	0	6		0	2	2			養父市	4	0	4		10	3	13		
太子町	4	0	4		1	3	4			朝来市	9	0	9		8	6	14		
宍粟市	(2) 18	0	(2) 18		5	9	14			合 計	(11) 460	(8) 248	(19) 708	1	358	580	938	0	0

(注)1・()の数字は休園数を示し、内数とする。

公立休園11【神戸市5、三木市2、加西市2、宍粟市2】

(注)2・市町名のゴシックは公立幼稚園における3年保育完全実施市町(3市町 7.3%)を示す。

- ・市町名の下線は公立幼稚園における3年保育1部実施市町(7市町 17.1%)を示す。
- ・公立幼稚園の園数は2年保育完全実施市町(20市町 48.8%)を示す。
- ・公立幼稚園の園数の下線は2年保育1部実施市町(5市町 12.2%)を示す。
- ・この他、へき地保育所として、計3保育所がある。
- ・休止保育所として、計6保育所【朝来市1、淡路市3、南あわじ市1、宍粟市1】がある。

Ⅱ 幼稚園教員の研修

1 幼稚園教育理解推進事業

(1) 趣旨

幼稚園の教育課程の編成をはじめとして幼稚園教育に関する内容、幼稚園の運営・管理、保育技術等に関する専門的な講義、研究協議等を行うことにより、幼稚園教育の振興・充実を図る。

(2) 事業の概要

本事業は、地区別幼稚園教育理解推進研修会、兵庫県幼稚園教育理解推進研究協議会を実施するものであり、その成果を文部科学省において実施される「中央協議会」において報告・協議する。

○ 協議主題

- (1) 幼稚園の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題についての専門的な講義や研究協議等

<協議主題 1>

幼児が協同して遊ぶようになるための環境の構成や教師のかかわりについて

- (2) 幼稚園を取り巻く諸課題についての専門的な講義や研究協議等

<協議主題 4>

幼稚園における子育ての支援や教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について

<協議主題 5>

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

① 兵庫県幼稚園教育理解推進研究協議会

県内各地区において取り組んでいる実践を中心に、教育課程の編成をはじめとして、幼稚園教育に関する諸課題について研究協議を行う。

実施日	会 場	参加者
平成24年8月20日(月)	兵庫県民会館	45名(うち 国立幼2名、私立幼6名)

② 中央協議会

兵庫県幼稚園教育理解推進研究協議会参加者の中から推薦された者が、その成果をもって参加し、指導上の諸課題や幼稚園を取り巻く諸課題について研究協議することにより、幼稚園教育の一層の振興・充実を図る。

実施日	会 場	参加者
平成24年12月10日(月) 11日(火)	独立行政法人 国立オリンピック 記念青少年総合センター	16名(兵庫県教育委員会に推薦された者)

③ 地区別幼稚園教育理解推進研修会

文部科学省の「幼稚園教育理解推進事業の協議主題」に基づき、各地区において研修会を開催し研究協議することで、教育課程の改善を図り、幼稚園教育の振興・充実に資する。

・実施日、内容等

地 区	実施日・会場・参加人数
	内 容
神 戸	平成25年3月8日（金）・神戸市総合教育センター・277名（見込み）
	報告「中央協議会」及び質疑 講演「就学期までに何をどう育めば良いのかー自己調整機能と生活習慣に焦点を当ててー」 神戸大学大学院 教授 伊藤 篤
阪 神 宝 塚 丹 波	平成25年1月28日（月）・川西市中央公民館・196名
	報告「中央協議会」及び質疑 講演「幼稚園教育要領をふまえた遊びの在り方」 武庫川女子大学 講師 山下 由佐
播 磨 東 加 東 淡 路	平成24年7月31日（火）・明石市立産業交流センター・154名
	講演「子どもの遊びを援助し、小学校教育との学びの連続性を図るために」 神戸大学大学院 准教授 北野 幸子 分科会ごとに研究協議
播 磨 西 光 都	平成24年7月26日（木）・姫路市勤労市民会館・156名
	講演「幼稚園における集団と教育」 兵庫教育大学大学院 教授 横川 和章 分科会ごとに研究協議
但 馬	平成24年8月8日（水）・県立但馬長寿の郷・102名
	講義及び指導助言「幼小の円滑な接続を促す幼児教育の推進について」 近畿大学豊岡短期大学 准教授 宿南 久美子 分科会ごとに研究協議 実践発表 香美町立射添幼稚園 主任教諭 青山 悦子

※参加者数 約885名（見込み）

2 幼稚園等新規採用教員研修

講義や実習、また、教員相互の交流を通して、実践的指導力を養うとともに、幅広い識見を身に付けることによって、幼稚園教員としての資質の向上を図る。

期間	内容	参加者	備考
平成24年4月 ～ 平成25年3月	園内研修 10日間 (所属幼稚園において実施) 園外研修 9日間 (3泊4日宿泊研修を含む)	71名	宿泊研修 於：県立南但馬自然学校 日程：平成24年8月27日（月） ～30日（木）

3 10年経験者研修

教育公務員特例法第24条の規定に基づき、個々の教諭の能力、適性やニーズに応じて必要な事項に関する研修を実施し、指導力の向上等、教諭としての資質の向上を図る。

期間	内容	参加者	備考
平成24年4月 ～ 平成25年3月	園内研修 10日間 (所属幼稚園において実施) 園外研修 5日間 (幼稚園10年経験者研修を含む)	24名	幼稚園10年経験者研修 於：兵庫県民会館 日程：平成24年7月24日（火） 参加者：36名(公立24名私立12名)

Ⅲ 幼 児 教 育 支 援 事 業

1 趣旨

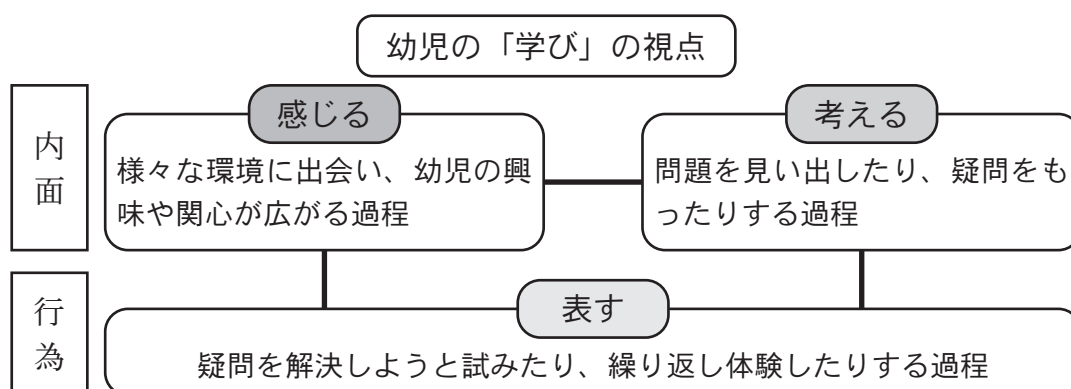
幼稚園教育要領の内容を踏まえた幼児教育を充実させるため、平成21・23年度「指導の手引き」を活用した確かな学びを培うとともに、教育内容や環境の構成・教師の援助の工夫を行い、幼児の遊びの中の学びを広げ、深めるための「言葉」や「表現」を通した「伝え合う力」の育成について実践研究を行い、それらの取組成果の普及・啓発を図る。

2 実践研究の内容

- ① 遊びの中の学びが広がり、深まるために適した教育内容
- ② 学びが広がり、深まるための環境の構成や教師の援助の在り方
- ③ 遊びの中で学びを伝え合う姿の把握・評価

3 「学び」を広げ、深める姿

遊びの中の「学び」をより確かなものとするために、平成23年度の研究で設定した「学び」の3つの視点「感じる」「考える」「表す」を活用し、遊びの中でどのような学びがあったかを検討した。



「学び」は知的活動として、とらえられがちであるが、本県では「学び」には、感性や情緒の基盤という側面も重要であると考え、2つの側面から「学び」を広げ、深める姿を次のようにとらえた。

- ①適切に自己主張や自己抑制をしながら、折り合いを付け協同して遊びを進める姿
(コミュニケーションや感性・情緒の基盤)
- ②教師の助言や友達のアイディアを聞き、その中から自分の遊びに適切であると思うものを取り入れたり、自分の気付きや考えを友達に伝えたりして、幼児自身が見通しをもって能動的に遊びを進める姿
(知的活動の基盤)

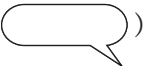
4 「伝え合う力」と「伝え合いに向かう姿」

「伝え合う力」とは、感じ、考えたことを言葉や表現を使って表し、友達や教師に伝えたり友達や教師が言葉や表現を使って表していることを受け止めたりする力である。また、初めての集団生活の中で、様々なものと出会う時期から、幼児は感じたり、考えたりしていることを心の中で整理し、ものの見方や考え方を確かなものにしていく。そのような心の中の働きが基盤となり、「表す」に至る。このことを踏まえて、本研究では相手に伝えようという意図はなく、ただ表出している場合も含めて「伝え合いに向かう姿」としてとらえた。

5 「学び」の広がり、深まりをとらえるために

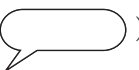
【研究方法】

幼稚園における幼児の遊びや生活のエピソードを丁寧に記録し、そのエピソードを検討する中で、次のことを研究した。

I 幼児がどのような関連する体験をしてきているか（左側の ）

II 幼児が遊びの中でどのような「伝え合いに向かう姿」を見せているか（  ）

III 幼児が友達や教師に対して「伝え合いに向かう姿」を見せたことで、どのように「学び」が広がったり、深まったりしているか（ **学び** **【学びの視点による要素】** ）

IV 「学び」が広がったり深まったりするためには、環境の構成や教師の援助はどうあるべきか（右側の ）

V 事例の中で、どのような遊びをしたり、教材を用いたりしたことで、どのような学びが得られたか

VI 事例の中での学びが、小学校以降の学習指導要領のどのような内容と関連をもつか

※（ ）中はP.9～P.20の事例中の表記を示す

6 地区別幼児教育研修会

開催場所・日程		研究テーマ	講師	参加人数
A	宝塚市立仁川幼稚園 平成24年11月27日（火）	しなやかに生活する幼児の育成～人とのつながりを通した学びの広がりや深まりを支える環境構成と援助の在り方～	兵庫教育大学大学院 教授 名須川 知子	157名
B	播磨町立播磨幼稚園 平成24年11月21日（水）	安心して自分らしさを発揮し、豊かな体験を通して思いを伝え合い、人とのかかわる力を身に付ける	神戸松蔭女子学院大学 教授 春 豊子	122名
C	姫路市立大津幼稚園 平成24年11月16日（金）	学び合い、伝え合う力を育てる指導の在り方と環境構成 －自然とかかわり、感動する心の育ちを中心に－	鳴門教育大学附属幼稚園 教頭 佐々木 晃	174名
D	朝来市立糸井こども園 平成24年11月8日（木）	自ら心を動かし夢中になって遊ぶ子 ～感じ・考え・伝え合う経験を通して～	武庫川女子大学 講師 山下 由佐	95名
E	篠山市立味間認定こども園味間幼稚園 平成24年11月1日（木）	人とのつながりやかかわりを通して育む豊かな心 ～伝え合い、学び合う仲間づくりをめざして～	関西学院大学 准教授 上中 修	86名
F	淡路市立石屋小学校附属幼稚園 平成24年10月18日（木）	学び（言葉による）伝え合う力の育成	兵庫教育大学大学院 教授 名須川 知子	71名

7 事例

事例1 見て！こんなに雨がたまったよ

B園：3年保育 3歳児（27人クラス） 6月中旬

ねらい

- 周りの幼児の様子を見て、面白いと思ったことをやってみようとする。
- 面白いと思ったことや気付いたことを教師や友達に伝えようとする。

保育の場面

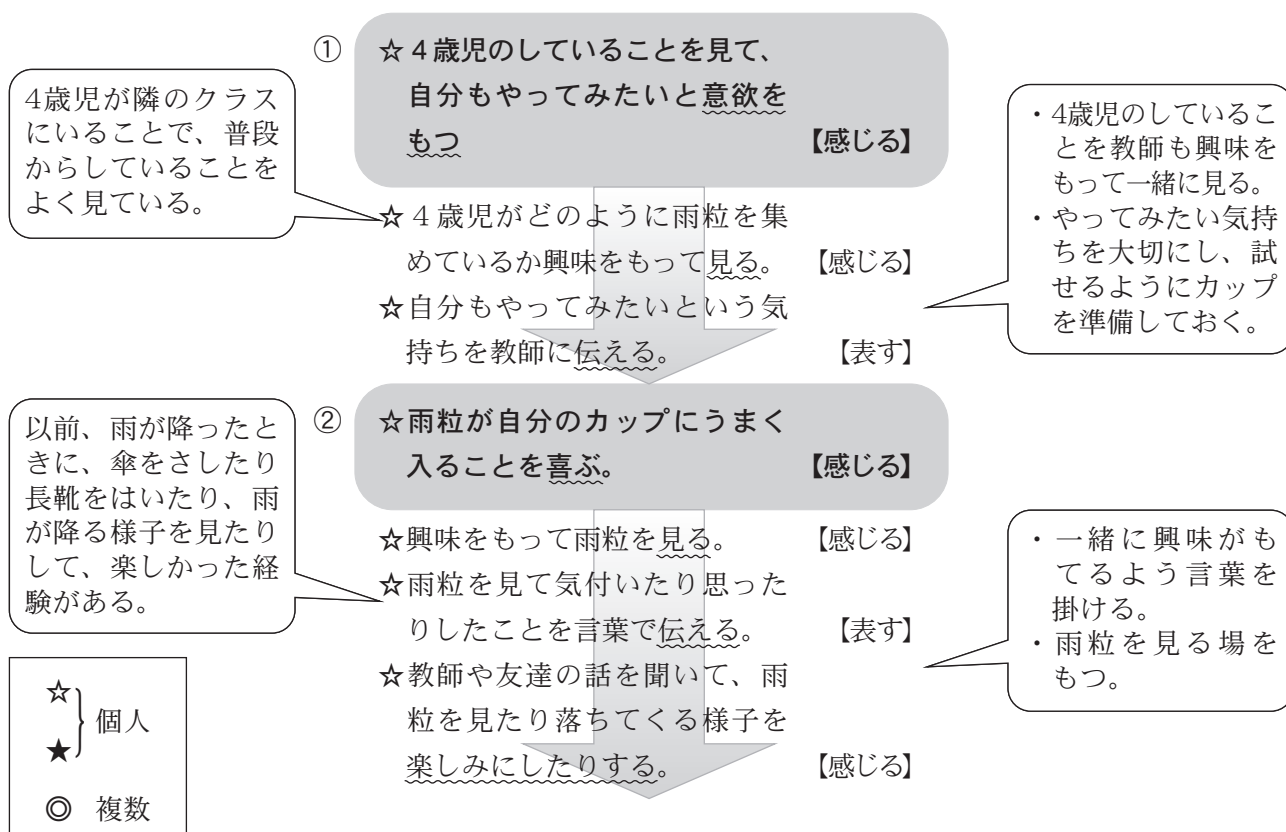
雨の日、屋根から落ちてくる雨粒を①4歳児がカップやトレーで受けている様子を3歳児がじっと見たり、上から落ちてくる雨を手で触ったりしている。「カップほしい！」「ぼくも」と教師に伝える。②「こっちも落ちてくるかなあ」「わあ！入った」と自分のカップに雨粒が入ると歓声をあげている。「雨の粒々、いっぱい並んでよ」という教師の声を聞いて、「ほんとや！」と上をじっと見たり、「あっ、落ちてきた」「こっちも」と話したりしている。③びしょぬれになりながら、雨粒をため続け、「いっぱいたまった！」「見て、こんなに」と笑顔で教師に見せる。何度も雨粒をためることを繰り返している。

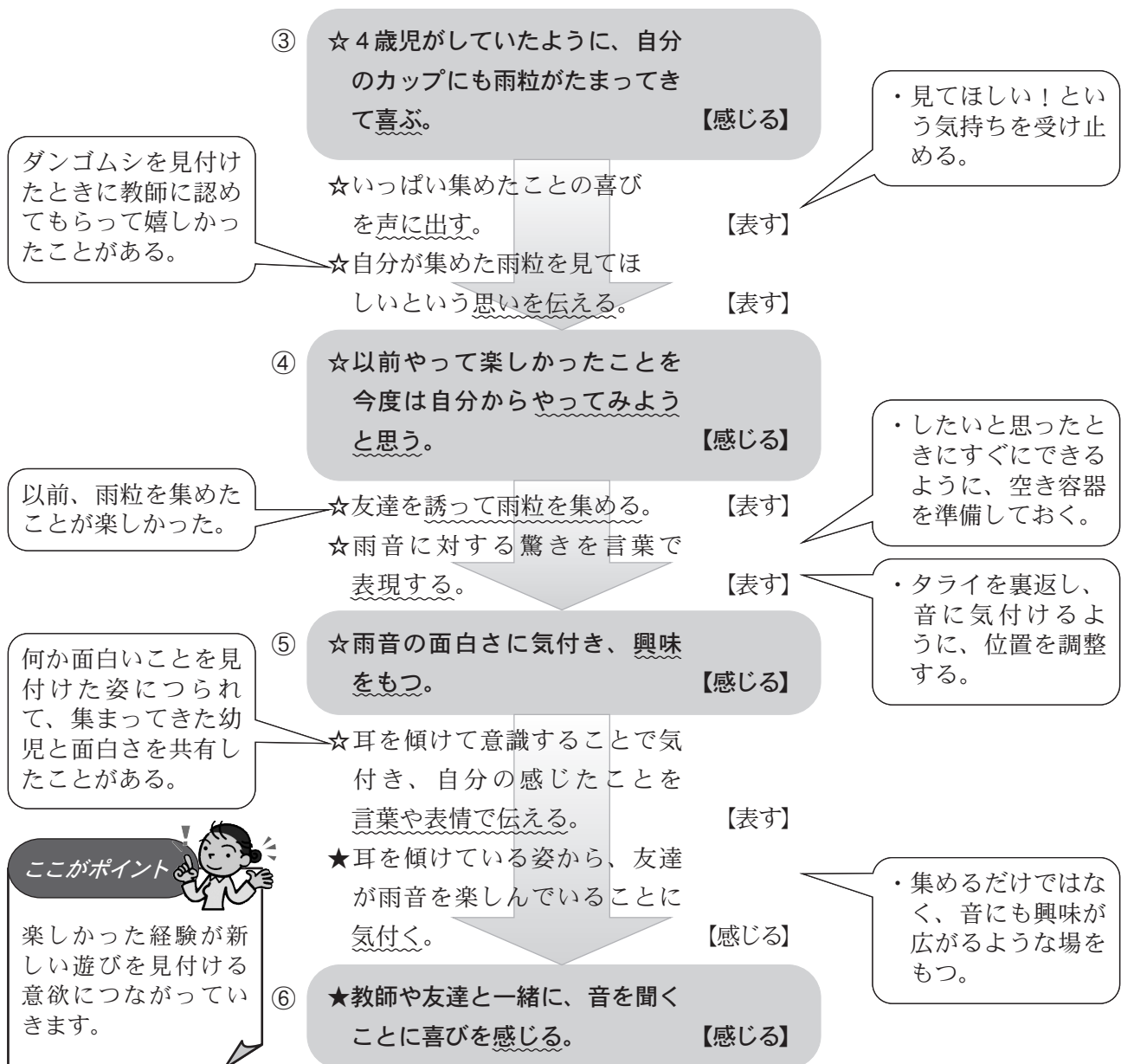
1週間後、雨が降った日に④自分からカップや卵パックなどを見付けて、友達を誘って雨粒を集め始めている。しばらくして、置いていたタライを教師が裏返しにすると、⑤「あっ、何か鳴った！」とタライの近くに幼児が集まってくる。「太鼓みたいやね」という教師の言葉に「ほんとや！太鼓や」「コン、コンっていつてる」と耳をすましている。⑥保育室に戻っていた幼児も「何？どうしたん？」と再びやってきて、タライに落ちる雨粒の音が鳴るたびに教師や友達と顔を見合わせている。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助





学びが広がり、深まるための教育内容

- ・身近な生活の中で起こる自然現象は、共通の興味の対象となる。
- ・異年齢児の活動を見ることは、憧れの気持ちが生まれ、興味をもったり真似てみたいと思ったりするきっかけとなる。

小学校における学びとの関連

- ・身近なことや経験したことを話す（国語 1 年）
- ・自然とのかかわりに関心をもつ（生活 1、2 年）
- ・身近な自然を観察する（生活 1、2 年）
- ・友達と仲よくする（道徳 1、2 年 2(3)）
- ・希望や目標をもって生きる態度の形成（特活 1、2 年）

事例2 水道管でも型ぬきできた

D園（認定こども園）：3年保育 3歳児（15人クラス） 5月中旬

ねらい

○ 教師や友達と一緒に砂で遊ぶことを楽しむ。

保育の場面

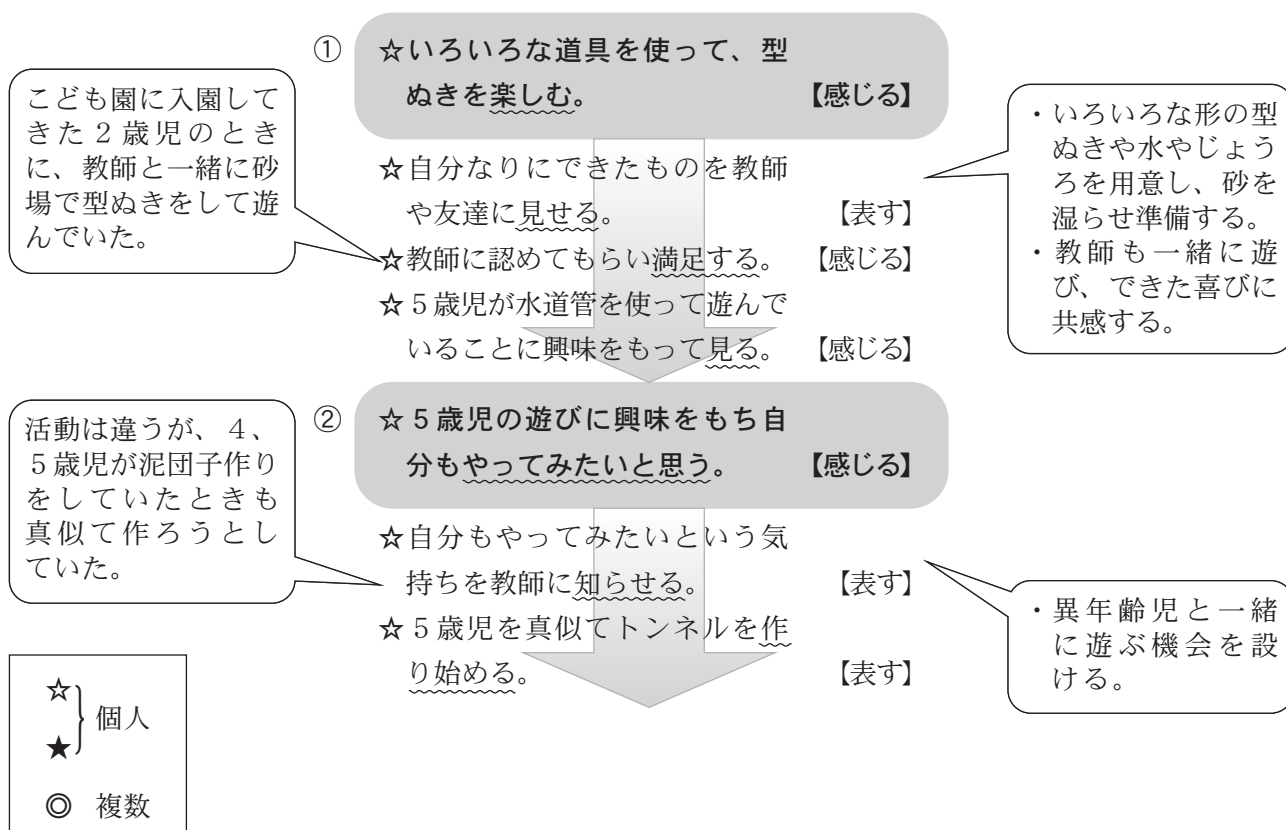
砂場で山を作ったり、穴を掘ったり、①魚の型やドーナツ型、プリン型など砂場の道具を使い型ぬき遊びをしている。

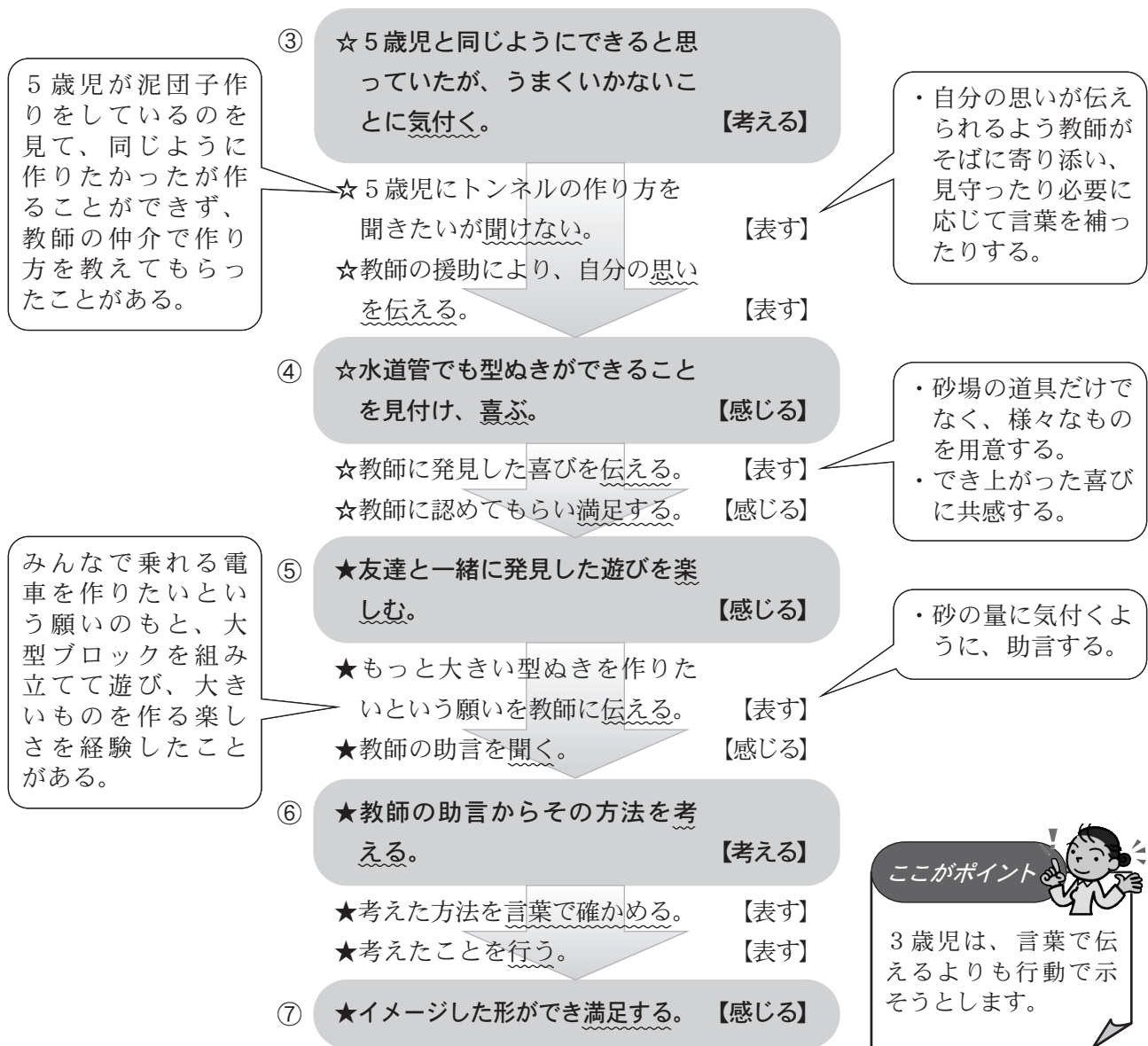
その横で5歳児が水道管を使い、トンネルを作って遊んでいる。②その様子をじっとうらやましそうに見てY児が興味を示し、「先生、ぼくもしたい」と1本の水道管を使ってトンネル作りを始める。③型ぬき遊びをしていた幼児たちも加わり、水道管の上に砂をかけたり穴を掘ったりしていたが、うまくいかなかった。教師が、どのようにすればうまく作ることができるのか、5歳児に聞いてみるよう声を掛ける。Y児は、しばらく5歳児の様子を伺っていたが、自分から言葉を発することができず、教師と一緒に聞きに行き、水道管を横にしたり、斜めにしたりして動かして取り組んでみたが、うまく作ることができなかった。④偶然、Y児が水道管を縦にしたところ、型ぬきができ、ニコッと笑った。Y児が「見て見て」と教師に伝える。教師が「わあ、すごい」と言うと、⑤他児も興味を示し皆で水道管を使い型ぬき遊びを始めた。M児が「今度は、もっと大きいのを作りたい」と言ったので、教師が「じゃあ、今度はどれだけ砂を入れたらいい？」と聞くと、⑥「もっと、いっぱい入れたらいい」と言い、砂を入れて作った。⑦でき上がりを見て「わあ、大きいのができた」と歓声をあげた。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助





学びが広がり、深まるための教育内容

- ・砂は可塑性が高く、作る面白さを味わうことができる。
- ・4、5 歳児の遊ぶ姿や様子がモデルとなり、3 歳児が遊びに取り入れようとする。
- ・失敗感を伴わない遊びは、繰り返し試そうという意欲につながる。
- ・繰り返し取り組める遊びからは、いろいろな発見が生まれる。

小学校における学びとの関連

- ・形を見付けたり作ったりする（算数 1 年）
- ・量の大きさを比べる（算数 1 年）
- ・遊び方を工夫する（生活 1、2 年）
- ・身近な自然物の形や色などを基に思い付いて作る（図工 1、2 年）
- ・友達と仲よくする（道徳 1、2 年 2(3)）
- ・自分でやろうと思ったことをしっかりと行う（道徳 1、2 年 1(2)）
- ・望ましい人間関係の形成（特活 1、2 年）

事例3 蝶々結びができるようになりたい

A園：1・2年保育混合5歳児（23人） 5月中旬

ねらい

- 自分の感じたことを話したり、友達の思いを聞いたりしながら、蝶々結びの遊びを楽しむ。

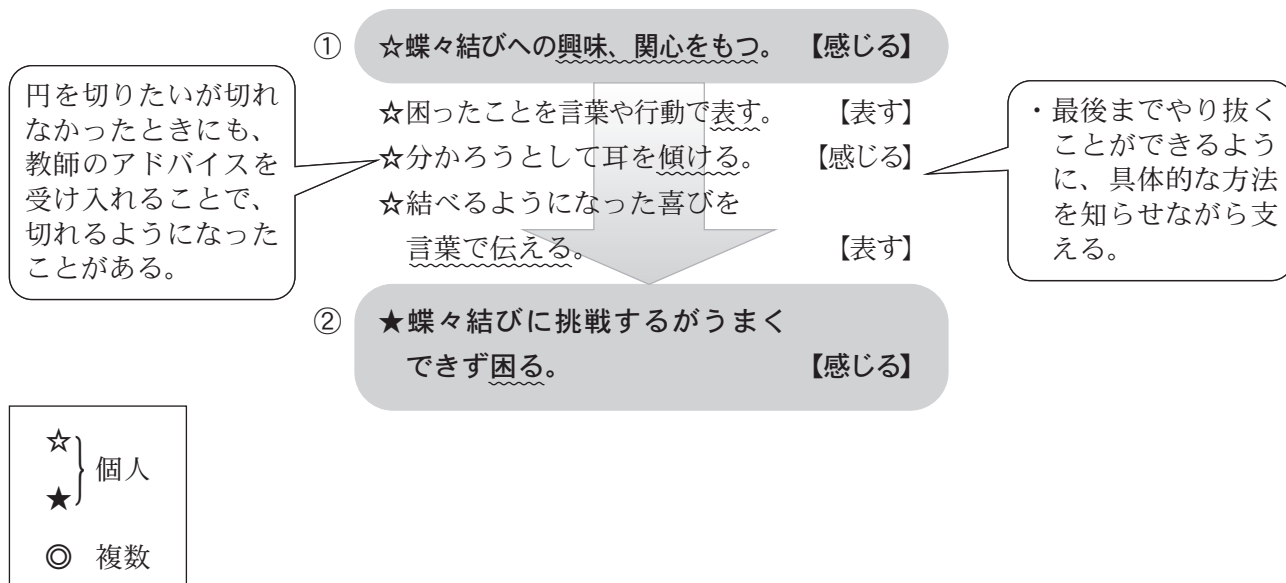
保育の場面

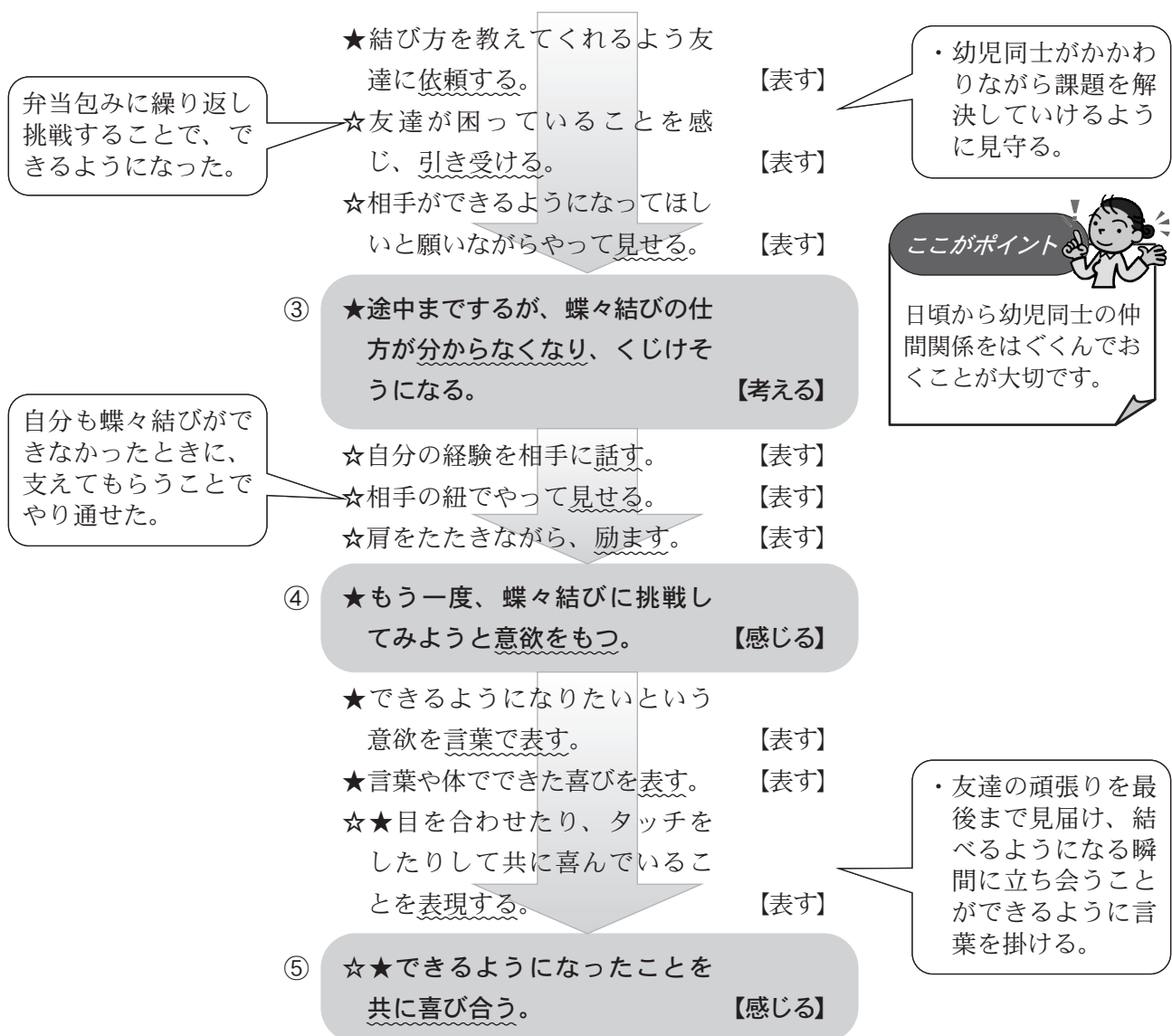
友達の様子を見ながら、蝶々結びに取り組むことができるような場をつくっておく。①数人の5歳児が蝶々結びの遊びをしている。K児は何度も結ぼうと試みた後、ひもを持ったまま友達の器用な手つきを黙って見つめ、「できない」と言って、その場から離れようとする。そこで、教師は手を取りながら結び方の手順を伝える。K児は、自分で結べるようになり「やった～。結べた」と笑顔で言い、その後も繰り返し蝶々結びをして遊ぶ。数日後、②N児はK児の向かい側で蝶々結びをしているがなかなかうまくできず、顔を曇らせている。N児は、K児に「ねえ、蝶々結びを教えてください」と声を掛ける。K児は、N児の困っている表情を見て、「いいよ。見といてね」と言い、結んで見せる。N児は、自分のできるところまで結んで見せ、③「この次が分からない。すごく難しい」と自分の思いをK児に訴え、その場に座り込む。K児は、「Kもすごく難しいと思ったよ。分からなくなって嫌になった」と、N児の気持ちを受け止めながら言葉を掛ける。そして、今度はN児が結ぼうとしているひもで蝶々結びをして見せる。また、N児の肩をそっとたたきながら、「大丈夫。絶対できるようになるから」と優しく話し掛け、N児を励ます。N児は、K児の声を聞いて④「うん。できるようになりたいねん。やってみるわ」と、言葉を強めて言う。その後も、N児は、繰り返し蝶々結びの遊びに挑戦する。教師は、K児がN児の様子に気付くことができるように声を掛ける。K児はN児の結ぶ様子を見ながら「もう少しでできそう」と励ますように声を掛ける。しばらくすると、N児が「できた。Kちゃんできた」と声をあげ、K児も「やった～。Nちゃんすごいね」と言って、2人は目を合わせてタッチし合う。⑤N児は「結べるようになって嬉しい。Kちゃんのおかげでできた。ありがとう」と言う。K児は「よかったね。私も嬉しい」とN児の喜びに共感する。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助





学びが広がり、深まるための教育内容

- ・乗り越えられそうな課題のある教材に出会うことは、挑戦しようとする意欲につながる。
- ・乗り越えられそうな課題のある教材を扱うことにより、個人差が出るため教え合い等のかかわりが生まれる。
- ・一度体得すると様々な場面で活用できる力を身に付ける経験は、くじけずやり遂げようとする意欲につながる。

小学校における学びとの関連

- ・事柄を順序立てて話す。（国語 1、2 年）
- ・日常生活に必要な技能を身に付ける。（生活 1、2 年）
- ・自分でできるようになったことを喜び、支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ。
（生活 1、2 年）
- ・自分がやろうと思ったことを、しっかり行う（道徳 1、2 年 1(2)）

事例4 チョウかな？ガかな？

C園：2年保育 5歳児（35人クラス） 6月下旬

ねらい

- 身近な生命の美しさや不思議さに触れ、驚いたり感動したりする。
- 考えたことを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、疑問を解決しようとする。

保育の場面

「先生、こんなのがおった」二人の幼児が教師のもとへ駆けて来て、そっと手を広げて見せたのはサナギ。①「見て。キラキラしてる」「アゲハのサナギに似てるけど、こんなの見たことない」と、目を合わせてうなずき合い自分たちの驚きを確認し合っている。クラスで紹介すると、他の幼児もその光っている模様に「金色や」と、興味津々な様子で見入った。翌日、次々に同じサナギが見付かり、8匹ほどの飼育観察が始まった。

飼育を始めて約一週間後、②羽化しているのを発見した。「わぁ、チョウになってる」「これ、羽伸ばしてるところやで」などと、それぞれに考えたことを言葉に出しながら観察した。

③「でもこれ、何？ガみたいな感じ」という幼児がいて、ガではないかという疑問の気持ちがクラスに一気に広がった。教師が「どうしてガだと思うの？」と理由を尋ねると、「触角の先に丸いのが付いてるし、羽を広げてとまってるから」と、自分の知っている知識と照らし合わせて推測する幼児。それに刺激を受けて他の幼児も「チョウは口がクルクルなんや」と情報を出し合っている。そんな中、「お花を入れて、羽を広げてとまるか、閉じてとまるか、確かめる」という意見が出た。「それがおったところの花がええ」と考え、④摘んで飼育ケースに入れて待ったが、花にとまる場所は観察できなかった。

翌日新たに羽化した成虫を前に、図鑑と見比べて調べることになった。⑤何度も見比べているうちに、巻かれた口を発見した。「口がクルクルやからチョウやわ」ということでチョウのページを見て調べるが、似たような色と模様のチョウが何匹か載っていて絞り込めない。「どこが違うの？」と特徴の違いに関心が向けられるように教師が問い掛けると、「こっちは白い点々がある」「こっちは茶色の点々や」と、気付いたことを言い合った。その中で、片隅に載っている幼虫の姿に気付いた幼児がいた。⑥「おじちゃん（用務員）がそんな毛虫取ってたで」という言葉で他の幼児も思い出した。

「ほんまや、同じや」「サナギがおった花のところにおった毛虫や」「それや、そのチョウチョってことや」と、⑦幼児なりに情報を収集整理し、「ツマグロヒョウモン」という種類まで探り当てた。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助

アゲハの飼育で成長への興味や関心を持ち、感動を味わい、仲間と共有した。

①

☆☆見たことのないサナギを発見し、好奇心を膨らませる。 【感じる】

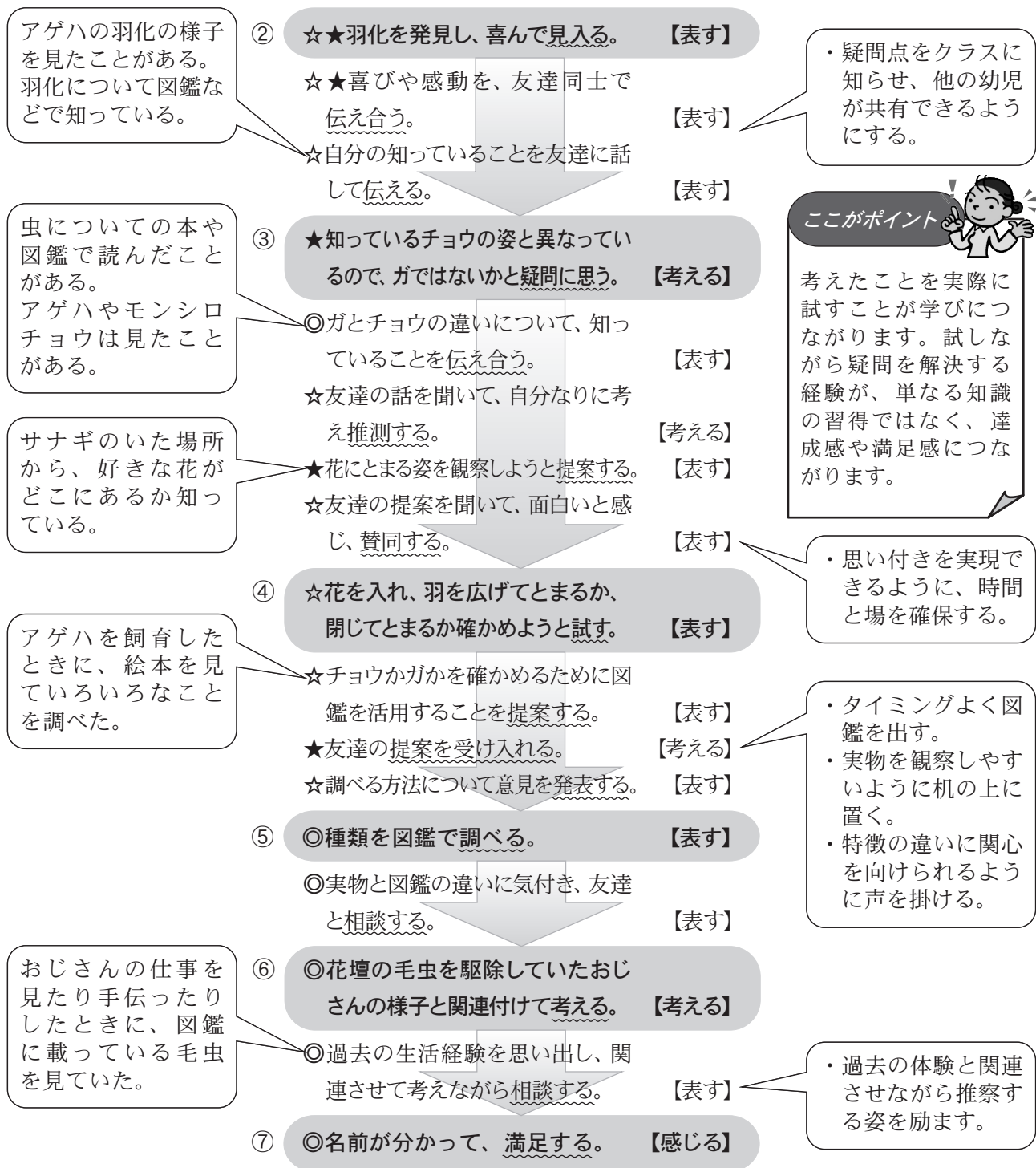
☆☆初めて見たサナギの様子に対する驚きを友達と伝え合う。 【表す】

☆☆教師に見せようと相談し、同じ思いをもつ。 【感じる】

◎クラスの友達に見せて皆で驚きを共有する。 【感じる】

・驚きに共感し受け止める。
・クラスの友達に紹介する場をもつ。

☆ } 個人
★ }
◎ 複数



学びが広がり、深まるための教育内容

- ・飼育観察を通して生命の神秘的な不思議さや美しさを目にすることは、感動が大きく、伝えたいという欲求が生まれやすい。
- ・見たことのないサナギやチョウについてのやり取りを通して友達と情報を共有し、知らなかったことが分かるようになる活動を行うことは、満足感につながり、より関心が深まるきっかけになる。

小学校における学びとの関連

- ・事物の説明や経験の報告、話題に沿って話し合う、興味をもって聞く（国語1、2年）
- ・生き物への親しみ、生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつ（生活1、2年）
- ・身近な自然の観察、昆虫の成長の過程や体のつくり（理科3年）

事例5 バトンパス、分かりにくい

E園（認定こども園）：2年保育 5歳児（22人クラス） 9月中旬

ねらい

- リレーに興味をもって、友達と楽しむ。
- 友達と一緒に遊びながら、考えを出し合い、遊びを進める。

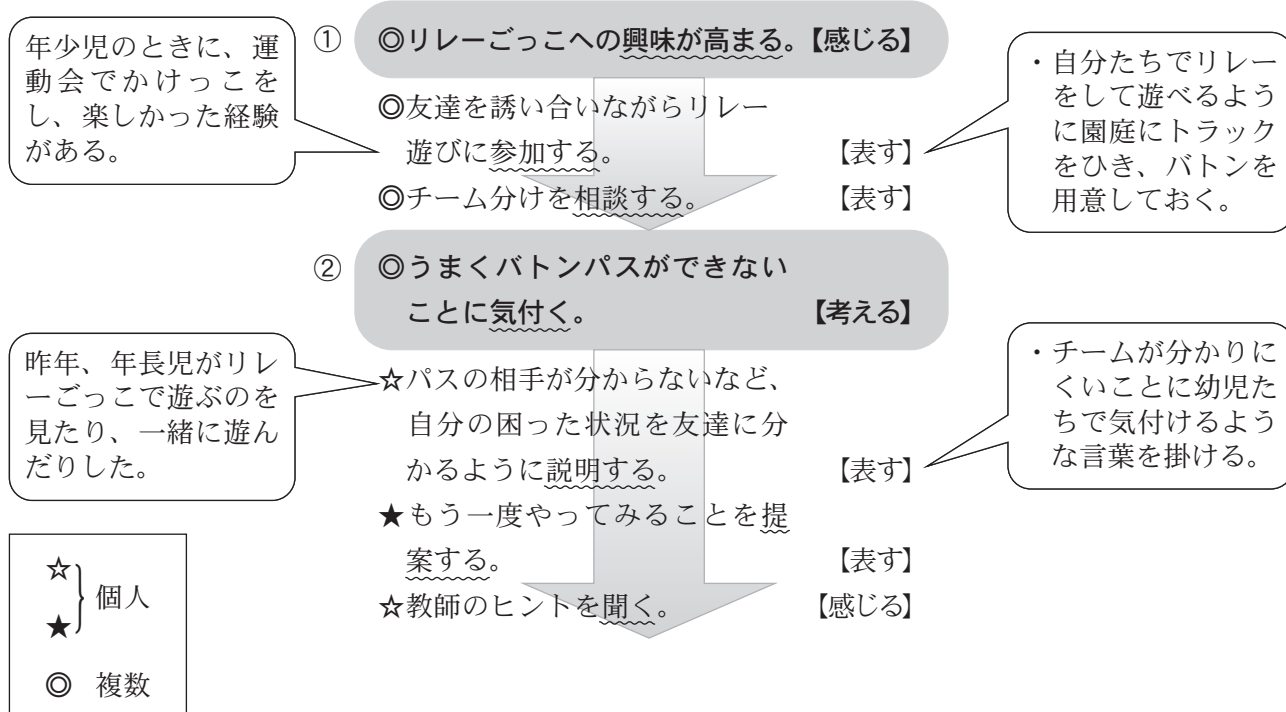
保育の場面

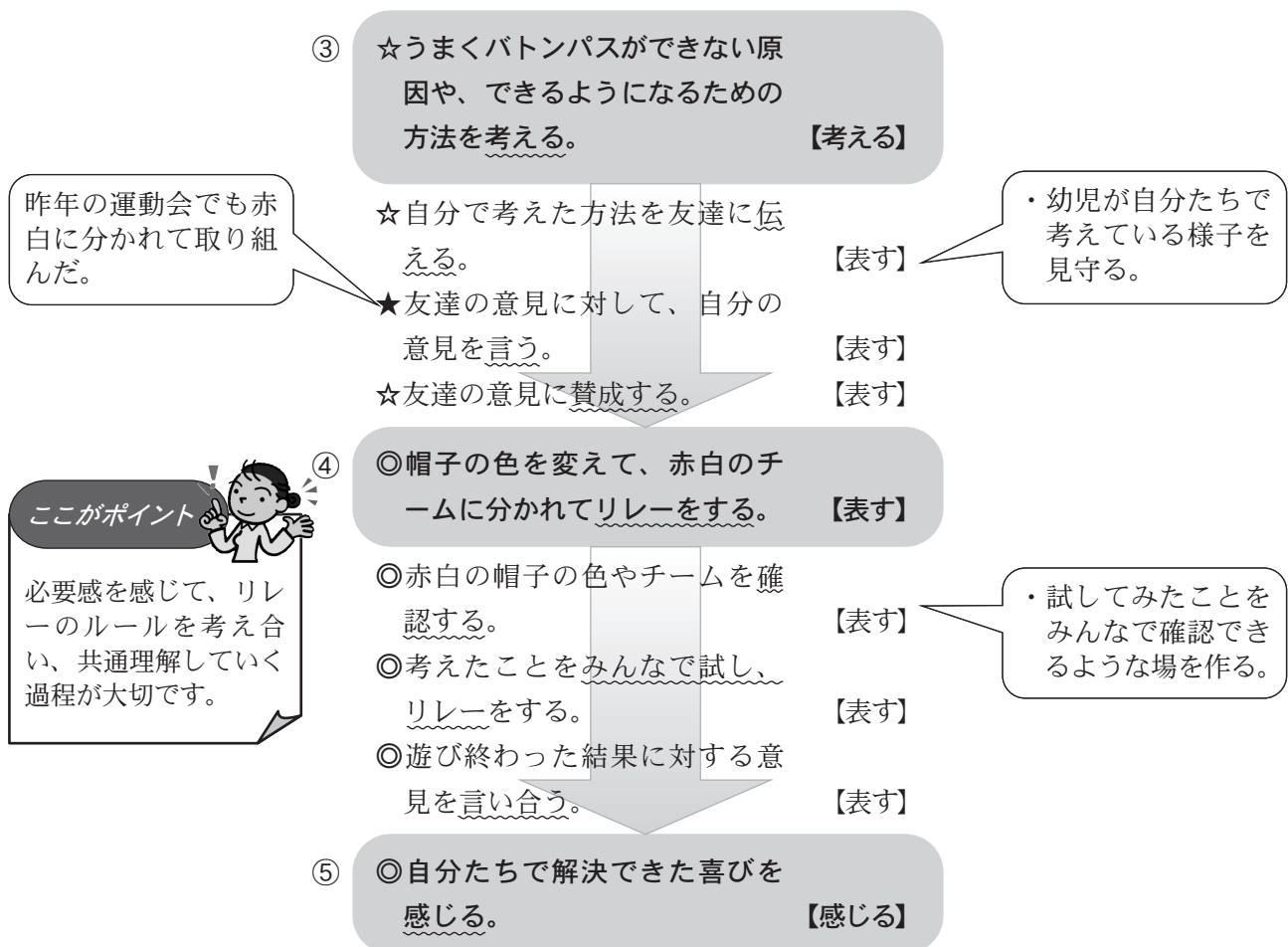
①好きな遊びの時間に友達と誘い合ってリレーを楽しむ姿が見られるようになってきた。自分たちでチーム分けが始まり、人数が揃うとリレーが始まる。走っている様子を見ると、自分たちで決めたチームだが、次誰に渡すのか分かっていない子が多く、②バトンパスのところで立ち止まったり、もめたりしている様子が見られる。走り終わった後、強い口調で、K児「Iちゃんバトン渡す子違った」I児「だって渡す人おらへんかったもん」A児「ごちゃごちゃになってた。もう一回しよ」と子どもたちで意見を言い合っている。もう一度リレーが始まったが、やはりバトンパスがうまくいかない。そこで教師は「みんな、誰がどっちのチームか分かってやってるの?」と問い掛けると③I児やK児が自信なさげに「ちょっと分かりにくい」と答えた。「分かりにくい子がいるってことは、みんな分かりにくいと思っているんじゃない? みんなが分かるいい方法はない?」と尋ねるとK児「ちゃんと順番に並んどいたらいいねん」T児「でも渡すときにばらばらになったら分からんやん」A児「みんな同じ帽子やからや。帽子の色変えたらいいねん」とそれぞれの思いを口にした。A児の意見に全員が賛成し、④T児が「じゃあぼくらは赤に変えるから、そっちは白な」と言い、赤白のチームに分かれてリレーが始まった。走り終わった後に、みんなを集めて「今、走ってみてどうだった?」と聞くと⑤K児「赤白に分かれた方が分かりやすかった」I児「間違わへんかった」とA児の意見に納得していた。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助





学びが広がり、深まるための教育内容

- ・ ルールを決めるなど友達と考えを出し合う必要がある遊びをすることで、互いに考えを出し合えるようになる。
- ・ 勝ち負けが分かるなど、チームとして力を合わせる必要がある遊びをすることで、相談したり応援したりするなど、仲間意識が生まれやすい。
- ・ 実際に問題が起きたことを取り上げ、みんなで考える活動は、問題に向き合うきっかけになる。

小学校における学びとの関連

- ・ 互いの話を聞き、話題に沿って話す（国語 1、2 年）
- ・ 身近にあるものを使って遊びを工夫する（生活 1、2 年）
- ・ 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりする（体育 1 年）
- ・ 友達と仲よくする（道徳 1、2 年 2(3)）

事例6 案山子が立たない

F園：1年保育 5歳児（27名） 9月中旬

ねらい

- 秋の自然に興味をもち、案山子作りを楽しむ。
- 案山子のイメージを広げたり、工夫したりして作ることを楽しむ。

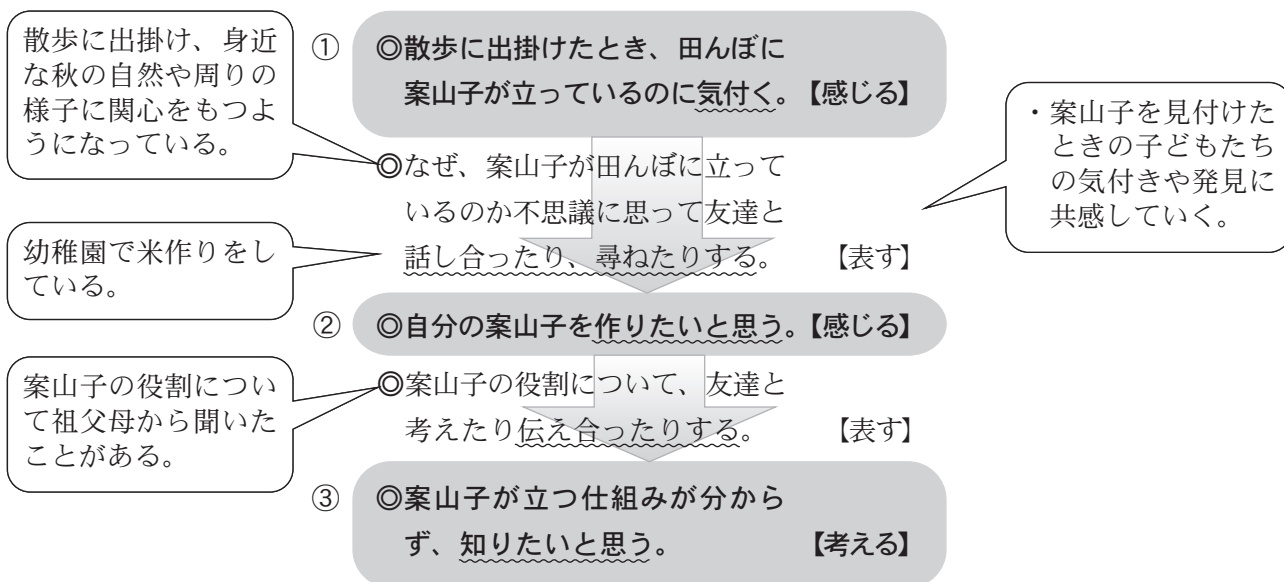
保育の場面

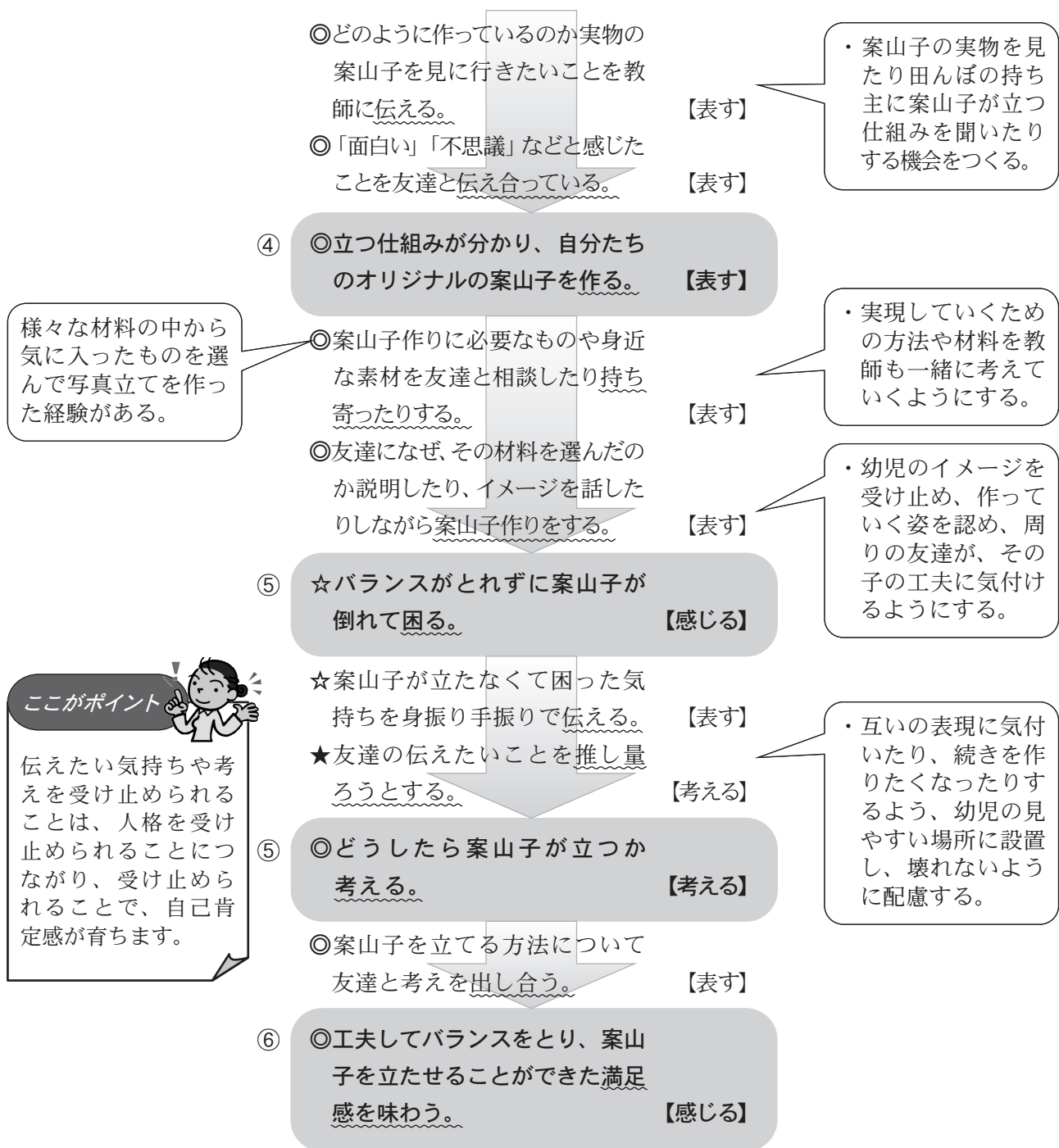
散歩での出来事。①子どもたちは、田んぼに案山子がいることに気付き、「何でおるんやろな？」と興味をもち始めた。子どもたちとその理由を考えたり、案山子について気付いたことを話し合ったりしているうちに②「自分で作ってみたい！」という気持ちが出てきたので子どもたちの思いを大切にしながら作ることにした。しかし③「どのように作って立たせているのか（骨組みの部分）が分からない」と言うので実物を見に出掛けた。実物をのぞいてみると竹を十字にして作っているのに気付き、早速、④等身大の案山子作りに取り組むことにした。案山子作りに必要な物を家から持ってきたり、身近な素材を見付け「スズメが怖がるように光る物を付ける」「ピエロみたいにかわいく作る」など自分なりにイメージを膨らませて工夫したり、ときには友達と相談したりして作ることができた。けれども⑤ペットボトルに立てていた案山子が頭や服の重みなどでバランスがとれず倒れた。そのとき、困った様子で言葉が出ないK児が身振り手振りで案山子が倒れたことを友達に伝え始めた。周りの子どもたちは、思いを汲み取ろうと身を乗り出すようにK児の身振り手振りを見つめた。⑥「上の方くくったら大丈夫かな」と言うので倒れた案山子を机の脚に結束バンドでくくった。それでもバランスがとれず「下の方もくくったら」という意見が出たのでスズランテープでくくった。⑦やっとのことで案山子を立てることができた。

関連する経験

学び・広がり・深まり

環境の構成・教師の援助





学びが広がり、深まるための教育内容

- ・ 困り感を共有できる遊びをすることで、伝えたいという気持ちが強くなり、工夫して伝えようとするようになる。
- ・ 地域にある案山子を取り上げることで、共通の興味をもちイメージを伝え合うことができる。
- ・ 自分の案山子をつくるという具体的な目的をもつことで、考えたり工夫したり、試行錯誤することができる。

小学校における学びとの関連

- ・ 形を見付けたり作ったりする（算数 1 年） ・ 工夫しながらものを作る（生活 1、2 年）
- ・ 身近な素材を使って手を働かせて使うとともに表し方を考えて表す（図工 1、2 年）
- ・ 自分たちの作品を楽しく見る（図工 1、2 年）
- ・ 郷土の生活に親しみ愛着をもつ（道徳 1 年 4(5)）

Ⅲ 実践から明らかになったこと

1 まとめ

	学び	学びの広がり・深まり (注1)	
Ⅰ期 (初めての集団生活の中で、様々なものと出会い試す時期)		事例1	事例2
		(縦は個人・横は友達) 個としての目的をもつが、興味・関心が移りやすく目的が変わる場合もある。近くにいる友達の刺激を受け、同じものに興味・関心が広がる場合がある。(矢印が現れる)	
Ⅱ期 (遊びが充実し、自己表現を楽しむ時期)		事例3	事例4
		少人数のグループ等で目的をもち始める。グループ内での伝い合いが活発になり、一緒に感じたり、考えたりする。(矢印が相互になったり、次々につながったりする)	
Ⅲ期 (人間関係が深まり、学び合いが可能となる時期)		事例5	事例6
		クラスなどの大きな集団として、共通の目的に向けて一緒に考えたり、共感したりすることが増える。(矢印が多い)	

※ (注1) は、学びの広がり・深まりは各事例を図示したものです。

※ (注2) は、教師や友達の行動や言葉に刺激を受けて「学び」が変化の様子を示す。

※ (注3) ➡ は、一人の幼児の「表す」が他の幼児の「感じる」に伝わる様子を示す矢印です。

※ (注4) ↔ は、一人の幼児の「表す」と別の幼児の「感じる」が相互に行われている様子を示す矢印です。

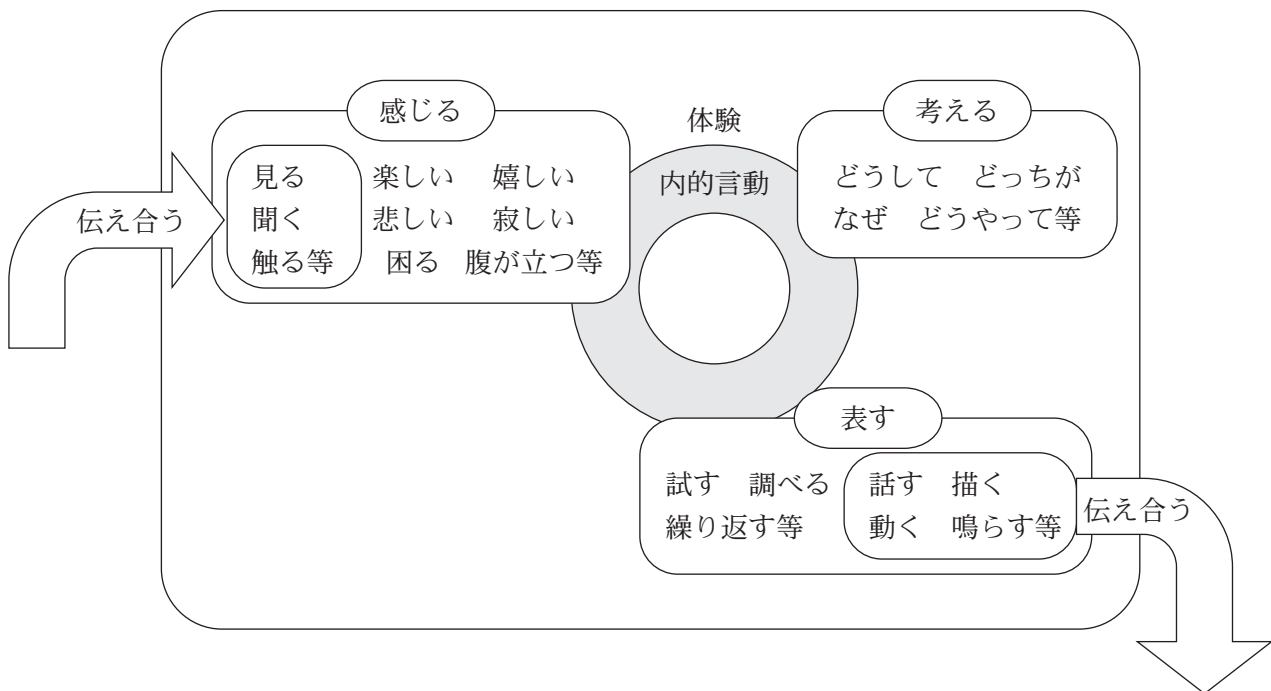
伝え合いに向かう姿	学びが広がり、深まる教育内容	望ましい環境の構成・教師の援助
ありのままの自分を出す ・幼児は、嬉しいときには喜び、それを全身で表したり、不安な気持ちから泣いたり、自分の思うようにならないと怒ったりするなど様々な姿を見せる。園生活の中でそのような自分の感情を素直に出し、それを周りの人に肯定的に受け入れられていくことで安定していく。 ・感じたり、考えたりしたことを内的な言語で自分なりに理解するが、それが表現まで至らない場合が多い。 自分の好きなものに目を向け、心を動かす ・幼児は、身近な自然や周囲のものの中で、心ひかれるものを見付け、繰り返し遊びながら、自分なりの思いを寄せるようになる。周囲の人に自分の思いを受け止めてもらうことで、より安定し、遊ぶ楽しさを感じ取っていく。	【遊び】 ・場の共有ができる遊び ・感触を通して楽しめる遊び ・形に残り確かめることができる遊び ・身近な自然現象を取り入れた遊び 【教材】 ・可塑性が高い素材 ・失敗感を伴わない材料 ・感触を通して楽しめる素材	一人一人がじっくり感じたり、考えたりできる場や時間の確保 【環境の構成】 ・興味が高まるまでの時間を十分にとる ・遊びを想定した教材の準備 ・年長児（異年齢の幼児）からの刺激が受けられる場の確保 【教師の援助】 ・心の安定を図る ・幼児の思い付きを認める ・幼児同士の仲立ちをする ・他の幼児に遊びを知らせる ・具体的な方法を提案する
自分なりに思いを伝えようとするようになる ・幼児は生活の中で嬉しいことや困ったことなど様々な体験をしたときに、その思いを身近な教師や友達に伝えようとする。表現する方法は、言葉や仕草、表情など幼児によって様々である。その子なりに思いを伝えようとしている意欲を受け止められたり、自分の思いが相手に伝わる喜びや満足感を味わったりすると、伝えようとする意欲はさらに高まっていく。 ・内的な言語を様々な場面で、表現や言語として使いながら試し、伝わる方法を見付けようとする。 伝え合いの大切さや相手の思いに気付く ・幼児は日常生活における様々な出来事の中で、その時々思いが相手に伝わったことで、遊びがより楽しくなったり、うまく伝わらずに困ったりするなどの体験を通して、思いや気持ちを伝えることの大切さに気付く、相手にも同じように思いや考えがあることに気付くようになっていく。そして、友達と過ごす楽しさを味わったり、自分の存在感を感じたりして、友達と様々な感情の交流を積み重ねながら、相手の思いを受け入れるようになる。	【遊び】 ・教え合いが生まれる遊び ・成否が分かりやすい遊び ・ルールのある遊び ・一度体得すると様々な場面で活用できる力が身に付く遊び ・友達と情報を共有し、知らなかったことが分かるようになる遊び 【教材】 ・生命の神秘さ等に触れる飼育動物 ・愛着をもって育てる栽培物 ・身近な環境にあるもの ・乗り越えられそうな課題のある教材	気の合った友達と十分かわりながら遊べるような場や時間の確保 【環境の構成】 ・触れ合ったり調べたりできる用具や絵本等を準備し、時間をとる ・みんなで確認できる場をもつ ・試行錯誤できる時間や場所を確保する 【教師の援助】 ・こだわりを受け止める ・違いに気付けるよう声を掛ける ・ヒントを与える ・教師がモデルを示す ・具体的な方法を知らせる
互いのよさや違いに気付く ・幼児は相手と気持ちを伝え合う経験を積み重ねていく中で、友達の考えに共感したり、反発したりしながら、一緒に生活する楽しさを味わっていく。そして、次第に相手の気持ちを大事にして思いやりをもって行動するようになり、互いのよさや違いに気付く、認め合おうとするようになる。 ・内的な言語で感じたり考えたりしていることがあっても、相手の気持ちを察したり、雰囲気を感じ取ったりして、すべてを表現するわけではない。 友達と互いに考えや思いを認め合い、遊びを進める ・幼児は、友達と遊ぶ中で自分の思いを実現する楽しさを感じる。そして、自分とは違う友達の意見や考えを取り入れたときに、より遊びが楽しくなる経験を積み重ねる。互いの考えを合わせることで、より遊びが楽しくなり、さらに、仲間としての意識が強まることで、心おきなく思いを伝え合うようになる。	【遊び】 ・具体的な共通の目標がもてる遊び ・物語の世界に入って楽しむ遊び ・考えを出し合う必要のある遊び ・仲間意識が生まれる遊び ・共同作業が必要な遊び ・困り感を共有できる遊び 【教材】 ・地域の環境にあったり、共通経験が土台となったりする教材	グループやクラスで幼児同士が伝え合うための場や時間の確保 【環境の構成】 ・幼児の目的に添って、実際に体験できる時間や場を確保する 【教師の援助】 ・幼児の目的が実現できるための方法や材料を教師も一緒に考える ・教師も期待している思いを伝え、幼児同士が気持ちを高め合っていけるように支える

9 伝え合う力を培うために

(1) 学びの広がり、深まりと伝え合いに向かう姿

幼児は集団生活の初めの時期には、自分が感じたり考えたりしたことをしっかり表したり、友達の思いや考えを受け止めたりできないが、「内的な言語」を使って感じたり、考えたりしている。伝え合いに向かう経験を積み重ねる中で、感じ、考えたことを言葉や表現を使って表し、友達や教師に伝えようとするようになる。また、様々に試したり、伝わった喜びを感じたりする中で、「内的な言語」も成長する。さらに協同性が育つに従い、幼児同士の伝え合いの場面も活発になり、学びはさらに広がったり、深まったりしていく。この段階では、「内的な言語」を言葉にしたり、表現したりするべきかどうかを考える場面も現れる。

内的な言語とは、「心のつぶやき」であり、それを的確に読み取り**幼児理解を深める必要がある**。



(2) 学びが広がり、深まるための環境の構成・教師の援助

伝え合う力を培うためには、2つの面を考える必要がある。

①何を伝えるか（経験）

②どう伝えるか（言葉や表現）

「何を伝えるか」を支えるものは、豊かな体験である。すなわち、教育内容である。

伝えたいと思える内容のある保育をきちんと行いたい。

「どう伝えるか」を支えるものは言葉や表現である。すなわち、環境の構成や教師の援助である。

伝えようとするときに、適切に伝えられるようになるための環境の構成や教師の援助ができるように努めたい。

1 0 実践協力園

実践協力園	保育年数	園児数	クラス数	教職員数
宝塚市立仁川幼稚園	2年保育	83	4	8
播磨町立播磨幼稚園	3年保育	182	7	12
姫路市立大津幼稚園	2年保育	132	4	5
朝来市立糸井こども園	3年保育	53	3	8
篠山市立味間認定こども園味間幼稚園	2年保育	165	8	16
淡路市立石屋小学校附属幼稚園	1年保育	27	1	4

1 1 幼児教育支援委員

所 属	氏 名
兵庫教育大学大学院	名須川 知子 教授
神戸大学大学院	伊 藤 篤 教授
神戸松蔭女子学院大学	春 豊子 教授
神戸海星女子学院大学	竹 内 伸宜 教授
神戸市立御影幼稚園	澤 田 愛子 園長
宝塚市立仁川幼稚園	住 田 直美 副園長
播磨町立播磨幼稚園	久 保 朋子 教諭
姫路市立大津幼稚園	改 発 光恵 主任教諭
朝来市立糸井こども園	松 田 美保 教諭
篠山市立味間認定こども園味間幼稚園	前 河 久美 主任教諭
淡路市立石屋小学校附属幼稚園	山 谷 つた子 主任教諭

幼稚園教育のあゆみ 第45集

平成25 (2013) 年3月発行

兵庫県教育委員会義務教育課
神戸市中央区下山手通5丁目10-1
電話 (078) 341-7711 (代表)

— この冊子は障害のある人が働いている施設で製作しました —